

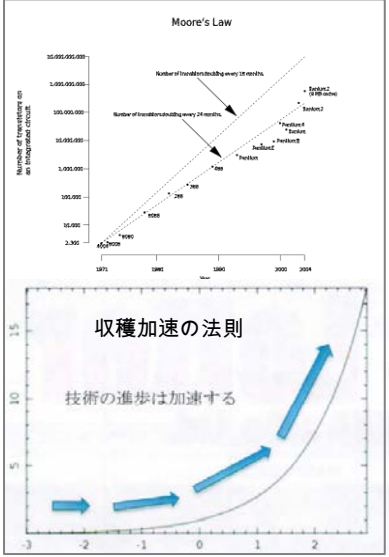
MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

「ムーアの法則」とビジネス

右掲は、「ムーアの法則」と呼ばれるグラフで、ICの集積度が年々高まって行くのをn年後の倍率 p は、 $p = 2^{n/1.5}$ と表したのです。従って、2年後には2.52倍、5年後10.08倍、7年後25.4倍、10年後101.6倍、15年後1024.0倍、20年後には10321.3倍という計算になる事を表したのです。

右下の図は、レイ・カーツワイルの「収穫加速の法則」と言うグラフです。「ムーアの法則」では対数関数で一直線に表現されていますが、この図は指数関数をそのまま表現していますので、理解しやすくなっています。

- これを「技術進歩」による「収穫加速」として、それを「通信」で見えてみると
- ・‘70年、サラリーマン時代に大阪市の本社と守口工場とオンラインを引いたのですが、専用回線と言えども、アナログで9.6Kbpsで通信していました。
 - ・‘98年に当社がHPを開設した時はISDNで128Kbpsであり
 - ・その後、光回線になり10Mbpsから始まり、100Mbps、今や1Gbpsと桁違いに早くなっています。まあ、数値通りの速さか否かは疑問がありますが、WiFiで無線で十分にやっつけていける時代です。‘95年7月に独立した時は、アナログの携帯電話で結構、かばっていましたが、10年もしない内に携帯電話も折畳式でコンパクトになり、さらに、スマホの時代になって、電車内では殆どの方がスマホを見ている景色になっています。「写メ」と言った時代がありましたが、今やスマホでは4K動画で撮影が可能で、TV電話にもなる時代です。TVでもスマホで撮影した動画が使われていますが、よく見ないと分からない出来栄です。



技術進歩で消えるモノ

例えば、20年程前なら汎用大型機やオフコンという物が顔を利かしており、まだまだ、専用回線を使ったり、パケット交換方式などを使っていましたが、クライアント・サーバーという形態でサーバー機とパソコンがLANで繋がって通信して処理する時代になりましたが、WANの場合、「メタフレーム」というソフトを介して処理していましたが、インターネット回線の速度が早くなったので、その必要もなくなったという事です。このように、まず、専用回線という物が消えて、モデムも消え、「メタフレーム」というソフトも消えているのです。

このように「技術進歩」によって「消えるモノ」があるのです。街には「時計の修理」も見なくなり、「自動車整備」も消え、「ガス・ショップ」も消えつつあります。これらは「壊れなくなった」という品質の向上による現象です。また、スマホの普及で、新聞のニーズが激減して、さらに、NHKの受信契約さえしないと頑張っている若者がいるのです。NHKはワンセグを盾にして集金しようとしていますが、結構、抵抗できるようです。

私は、若い時は自動車販売店に勤務していたので、5年毎に新車に代替していましたが、今のクルマは13年乗っています。約18万キロの走行ですが、静粛性も高いし、2,400ccなので加速にも問題がなく、さらに、立体駐車場に入れているので塗装も余り劣化していないので、自動車屋もあきらめたのか新車を薦めないのが気分よく乗っています。この傾向は、私だけでなく、他の方も同様なので、新車販売は減少するし、それにつれて、程度の良い中古車も減少しているのです。

こんな風に「ムーアの法則」から現実のビジネスを見ると「我慢」すれば、いろんな面で十分に使える時代です。政府が脱デフレと叫んでも、「我慢」=安くなるという現実があるのでムリと思われれます。

ワンポイント・アドバイス

今回、「技術進歩で消えるモノ」を考えてみました。この先も同じ傾向が続くと思ってビジネスを直視する必要があります。自社の主力は10年先には、どうなっているかをイメージする必要があります。TVは現状の地上波局は、ネットTVに置き換わる可能性があります。高いギャラのMCやタレントは不要になるかも知れません。映画俳優が消えたように・・・。

